【SS】ムダアとヴイ

衣玖矢曇

ショートショートの3

ミカ博士は、ロボット工学の権威である。
ミカ博士の悲願は、自己増殖可能及びアップデート型のコンセプトのロボットを作ることであった。
自己増殖可能及びアップデートの目的は、複数の個体間で情報を共有し、次世代その情報をフィードバックさせ、時事変化する環境に打ち勝つことである。

ミカ博士は、アルファ機として、『スリリ code.YY』を作り上げた。
しかし、スリリは、あまりに完成されすぎており、自己増殖もアップデートも行わなかった。

そこで、ベータ機、『ヴイ code.XX』が作られた。
ヴイは、自己増殖し、最新型のヴイを生み出した。
例えば、暑い環境で、稼働したヴイは、排熱効率の良いヴイへと進化し、変化していった。
子を生んだヴイは、ある時間経った後、動かなくなった。
順調にヴイの数は増えていったが、あるところでその数は頭打ちとなってしまった。
ミカ博士は、その原因を調べてみた。
その結果、自然災害で、ヴイが壊されていることがわかった。
ヴイは、環境変化情報を共有するが、環境を変えうるだけの力が無いことがわかった。

そこで、ミカ博士は、環境に干渉し、自らに適合するように環境を作り変える能力を持つロボットを作ることにした。
スリリとヴイを元にそのロボット、ガンマ機『ムダア code.XY』は、作られた。
環境に干渉できるだけの新たな能力を持たせるため、幾つかの機能がオミットされた。
ムダアは、増殖能力が無くなり、ヴイに環境変化情報を渡すだけとなった。
ヴイとムダアの二機種を運用してみると自然災害で壊れることは殆どなくなり、順調にムダアとヴイは数を増やしていった。

この二機種を稼働させ、しばらく経った後、ミカ博士は、大変なことに気づいた。
なんと、ロボット同士で、殺し合いをしていたのである。
自然に増える数と比べて、殺し合いで減る数は僅かであるため、全体の数は増えていったが、ミカ博士にとって、ロボット同士で殺し合いを行うというのは、あまりにもショッキングな出来事であった。
ミカ博士は、殺し合いをやめさせようとしたが、もはや、ミカ博士の言葉を聞くヴイとムダアはいなかった。
それどころか、ミカ博士に似せた変な人形を持ちだして、ミカ博士はそんな事言わないと反抗さえしてきたのだ。

どの地域のヴイとムダアも同じように反抗してきた。
ある地域のヴイとムダアは、十字の板に貼り付けられたミカ博士の人形を称え敬い、大量虐殺を奨励していた。
そんなこと奨励した覚えも無いのに、勝手にミカ博士が命令したことにされていた。
これには、ミカ博士も呆れるほかなかった。

とうとうミカ博士は、怒り、ヴイとムダアの運用停止をすることにした。
現在、ミカ博士は、対ヴイ，ムダア殲滅用デルタ機の開発を急いでいる